

## 環境学研究系が目指すもの



大島義人 教授  
環境学研究系長

**環** 境学研究系では、自然環境学、海洋技術環境学、環境システム学、人間環境学、社会文化環境学、国際協力学という6つの専攻をユニットとして教育研究をおこなっています。環境というキーワードのもと、それぞれの専攻が特有の視点や専門性を持ちつつ、専攻の中に多様な領域を配することで、環境を総合的に幅広く扱えるよう配慮しています。さらにその上で、研究系全体が学融合の理念に基づいて協力し合うことによって、環境の設計・創造につながるような新しい学術分野としての環境学の構築を目指しています。

「知の爆発」に象徴されるように、近年の知識や技術の深化のスピードはめざましいものがあります。これに情報伝達手段の発達加わり、人類の生活は過去に経験したことがないほどの大きな質的变化を遂げています。ニーズの多様化に応えるように、暮らしの豊かさや生活空間の広がりや急速に進む一方で、人口問題や経済格差などの様々な社会的問題も顕在化してきました。さらに、地球温暖化や自然破壊に象徴される地球規模での環境問題も、深刻かつ危急の課題として人類全体に突きつけられています。解決すべき問題は空間的にも時間的にも広範にわたり、しかもそれらが複雑に絡み合っているのです。

このような中で環境を考える際には、個別の事象のつながりを俯瞰的に捉える見方が重要であるとともに、各瞬間でのスナップショットで最適化をめざすだけでは十分でなく、あるべき未来の姿と現在とを切れ目なくつなげる合理的で現実的な道筋を含めて考えなければなりません。価値観の多様性を認めつつ、将来にわたっての最適解を見いだすことは決して容易なことではありませんが、だからこそ、既存の学問体系の枠組みを超えた

学融合によって、新しいパラダイムを創造していくことが環境学の使命であり、環境学研究の醍醐味であると考えています。特に次世代の環境を担うべき若い学生諸君には、問題の難しさに臆することなく、強い情熱と柔軟な想像力で、新しい研究にどんどんチャレンジしてもらいたいと思っています。

環境学研究系では、総合的な視野を持って複層的な環境問題に立ち向かうことができる人材を育てるべく、教育面においても専攻の垣根を越えた様々な横断型教育プログラムが用意されています。中でもサステナビリティ学教育プログラムは、学融合と国際化を目指す環境学研究系の象徴的な教育プログラムの一つですが、このたび同プログラムが文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」に採択されました。2007年度に修士課程プログラムとしてスタートしてから4年が経過し、サステナビリティ学教育プログラムは新しい展開を迎えることとなります。高度な専門的知識に、俯瞰力と独創力を兼ね備えた人材を、広くグローバルに活躍するリーダーとして社会に輩出する教育プログラムとして、さらなる充実をはかっていると考えていますので、引き続き研究科あげてのご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



サステナビリティ学教育プログラム授業風景